

六甲 鉢伏山

年 月 日	2022 年 6 月 27 日
天 気	晴れ
集合場所・時間	JR 須磨駅改札 9 時集合
参加人数	16 名
歩行時間・距離	3 時間、 6Km
費 用	1.010 円 (JR 芦屋起点)

コースタイム

高倉台（体操）9:35/9:40～おらが茶屋 9:52/10:00（トイレ）～鉄拐山 10:24～妙見堂跡
10:40～義経道分岐 10:45～山腹歩道コース～鉢伏山（昼食）11:45/12:15～旗振茶屋 12:30
～義経道～一の谷公園 13:13～13:40JR 須磨駅（解散）

感 想

天候晴れ、暑さ指数「29」でスタート。須磨から高倉台まで市バスで移動。高倉台近隣センターで体操。横断陸橋を渡り上り坂を10分程度歩くとおらが茶屋。第一回目の水・トイレ休憩。屋上展望台に昇る人もなく日陰でしばし涼を取り六甲全山縦走路を西行。縦走路と義経道の分岐点が北側から鉄拐山に登る入口にあたる。鉄拐山山頂は東側に位置する神戸市中心地を見渡せる一番のビューポイント。集合写真を撮り、南斜面の登山道を下り妙見堂跡に向かう。つい最近まではこの南斜面の登山道は、斜度がきつく砂利の混ざった滑りそうな坂道であったのが、しっかりと整備され、足元に不安のないものに改良されていた。妙見堂跡から鉢伏山までは概ね平坦。ウバメガシや楠、ヤマモモなどの大木が暑い日差しを遮る夏木立の道であった。山腹歩道コースと表示されていた。見頃の紫陽花に迎えられ、正午前に鉢伏山回転展望閣に到着。思い思いの場所で昼食。集合写真撮影後、旗振茶屋に向かう。旗振山は西側に播磨方面を望む一番のビューポイントであるが横目で見ながら通過。六甲全山縦走路をしばし東行し一の谷方面に右折。義経道を進行し時々水休憩をはさみ一の谷公園に下山。838年前の冬2月、義経が「鹿の行く道を馬に行けぬはずがない！」と騎馬武者を鼓舞し平家本陣を山側から急襲。その逆落しの場が鉄拐山・旗振山であったと云われている。今回ル・ベールはその道をのんびり散策した。